

2022年3月期 第2四半期

決算説明会

長瀬産業株式会社

2021年11月22日

- 2022年3月期第2四半期決算概要及び通期見通し P3~P18
- サステナビリティ推進について P19~P22

2022年3月期第2四半期決算概要及び通期見通し

連結損益計算書

- ▶ 売上総利益
 - ・ 第1四半期に続いて全セグメントで増益となり、売上総利益以下すべての段階利益で第2四半期累計の過去最高値を更新
 - ・ 特に自動車、樹脂およびエレクトロニクス関連ビジネス、Prinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスが好調
- ▶ 営業利益
 - ・ 売上総利益の増加を受けて、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期と比べて営業利益は大幅に増益
- ▶ 四半期純利益
 - ・ 政策保有株式の売却益が減少するも、経常利益までの大幅な増益を受けて四半期純利益も増益

(単位:億円)

	20/09	21/09	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	2,863	3,737	+ 873	131%	—	—
売上総利益	537	687	+ 149	128%	1,300	53%
<利益率>	18.8%	18.4%	△0.4pt	—	—	—
販売費及び一般管理費	448	492	+ 43	110%	1,000	—
営業利益	89	194	+ 105	218%	300	65%
経常利益	96	204	+ 107	211%	310	66%
親会社株主に帰属する四半期純利益	101	146	+ 44	144%	225	65%
US\$レート (期中平均)	@ 106.9	@ 109.8	@ 2.9 円安		@109.5	
RMBレート (期中平均)	@ 15.3	@ 17.0	@ 1.7 円安		@16.9	

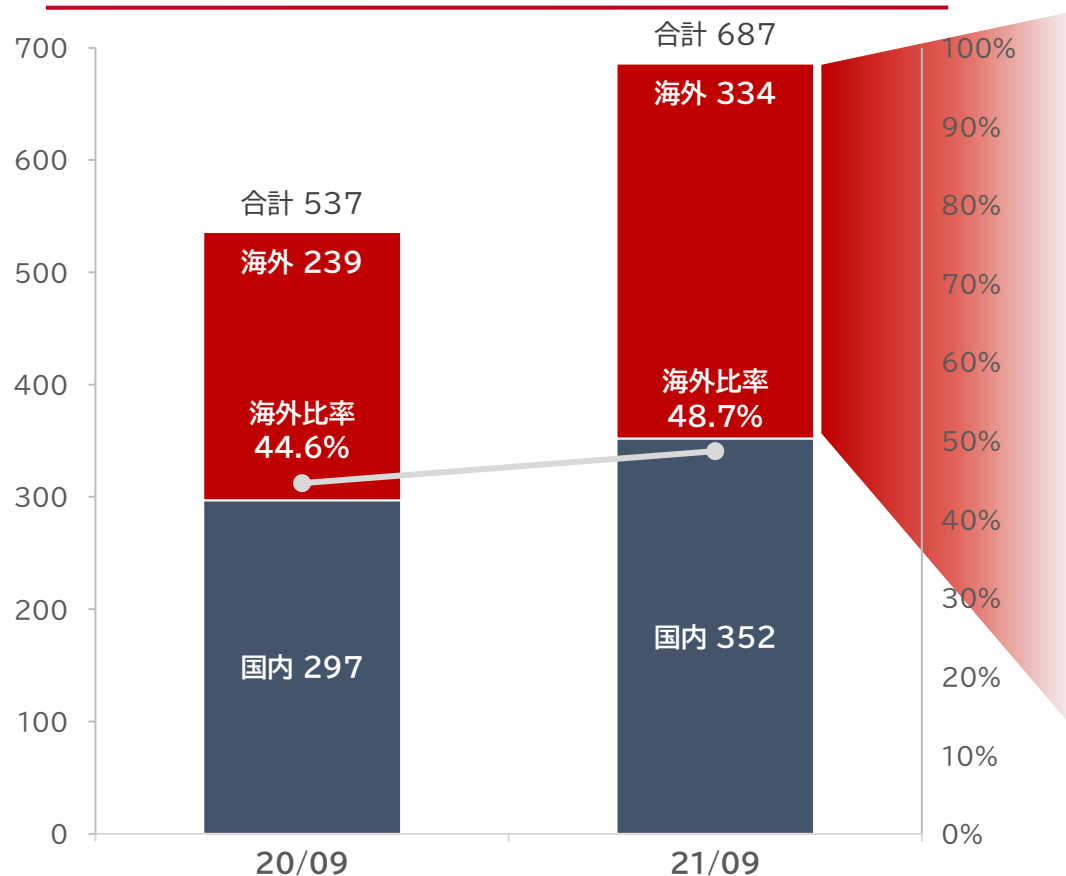
※収益認識基準適用による売上高および売上原価の相殺額 20/09 △947億円 21/09 △1,171億円

※為替の影響【売上総利益】+10億円【営業利益】+3億円

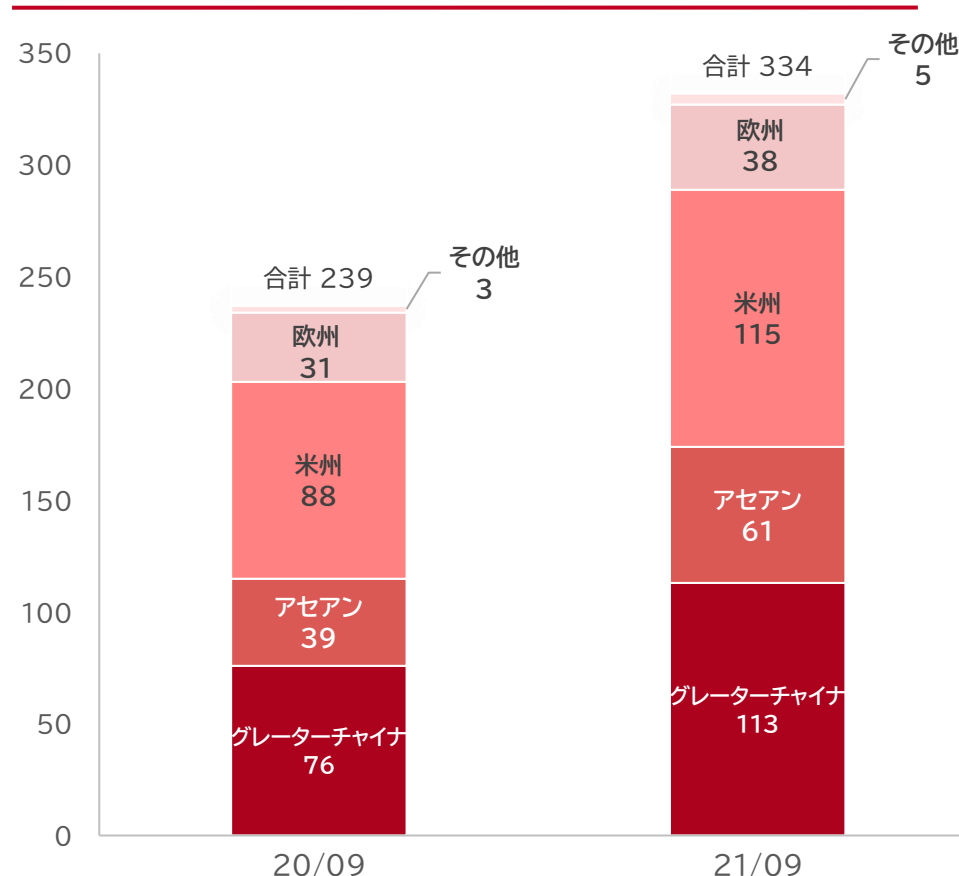
所在地別 売上総利益

- ▶ 国内および海外ともに増益
- ▶ 国内は特に自動車関連ビジネス、モバイル機器・ディスプレイ用途向けのエレクトロニクス関連ビジネスが好調
- ▶ 海外はグレーターチャイナ、アセアンを中心とした主にOA・ゲーム機器関連向けの樹脂ビジネスや、欧米におけるニュートリション関連ビジネスが好調

国内・海外売上総利益（億円）



海外売上総利益の地域別内訳（億円）



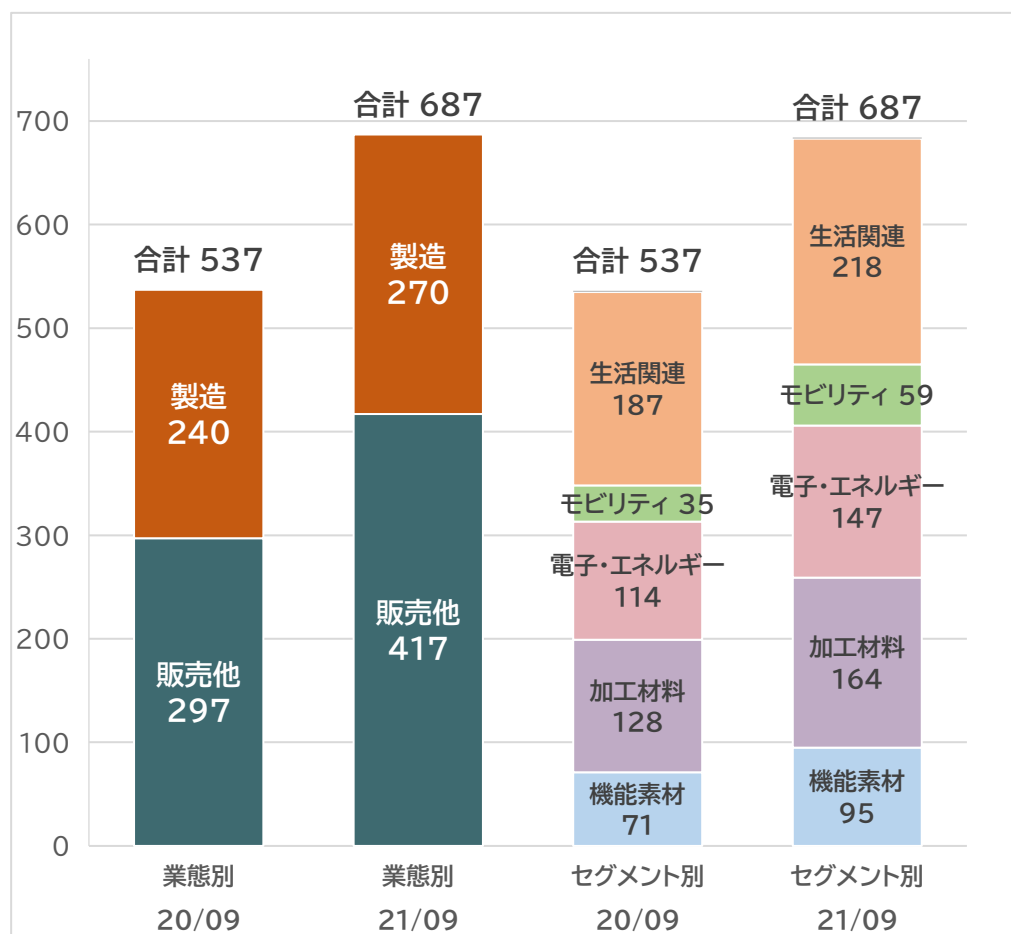
※2022年3月期より従来の仕向け地別の海外売上高に代えて、連結会社の所在地別に集計した売上総利益を地域別情報として開示しております
 ※国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます

業態・セグメント別売上総利益 2期比較

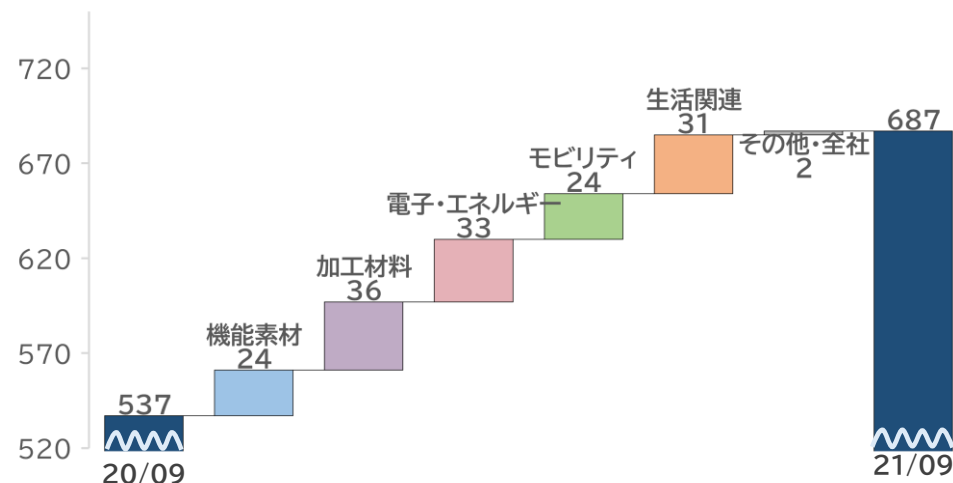
- ▶ 全セグメントにおいて増益となり、過去最高の第2四半期累計売上総利益
- ▶ 加工材料は樹脂ビジネスにおける堅調な需要と、市況高騰の影響を受けて収益性が改善
- ▶ 生活関連はPrinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスの好調や、化粧品素材の販売好調を受けて増益

※各セグメント数値の比較情報は2021年4月1日付けで実施した事業区分の変更による影響を反映したもの

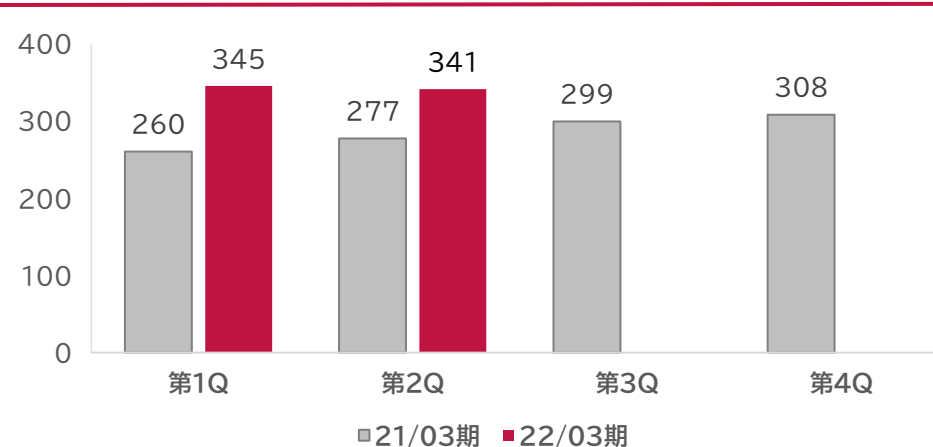
業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



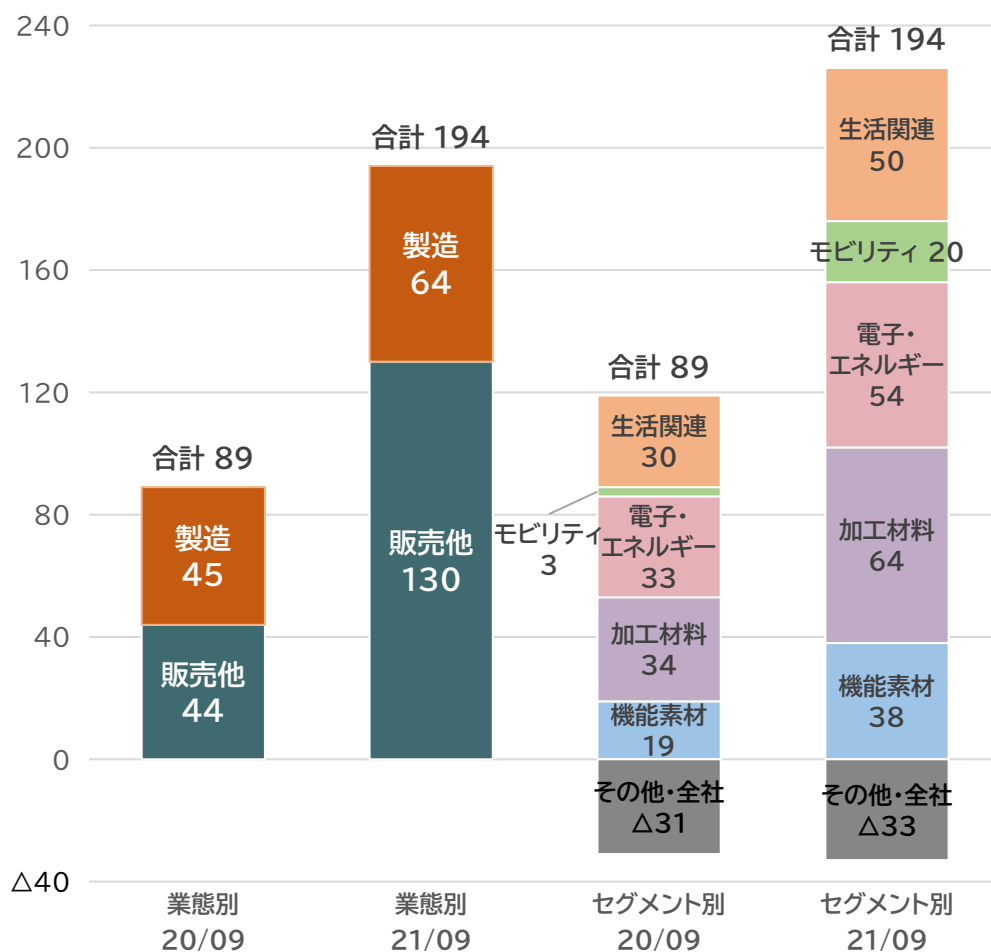
売上総利益 四半期推移 (億円)



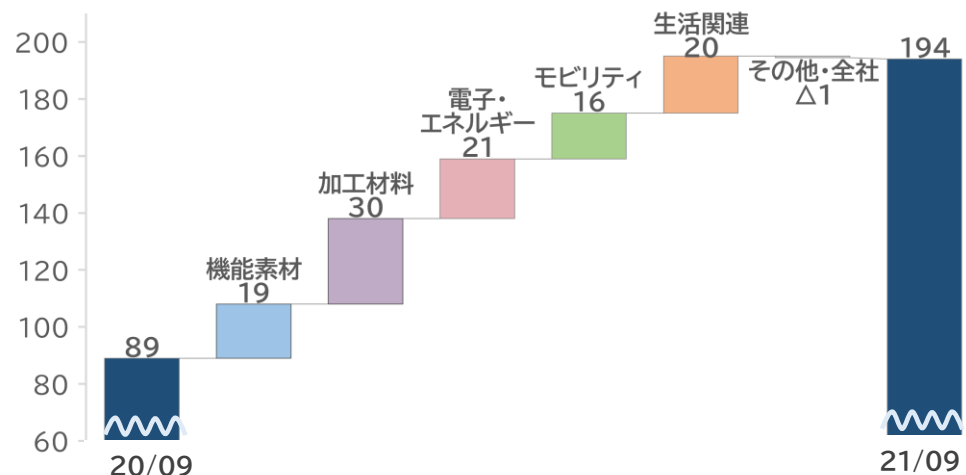
業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 全事業セグメントの売上総利益の増加を受けて、営業利益は第1四半期に続き、過去最高の第2四半期累計営業利益を更新
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施
- ▶ グループのバイオ知見を結集し、持続可能な事業創出を推進するための全社開発組織としてNAGASEバイオテック室を創設し体制を強化

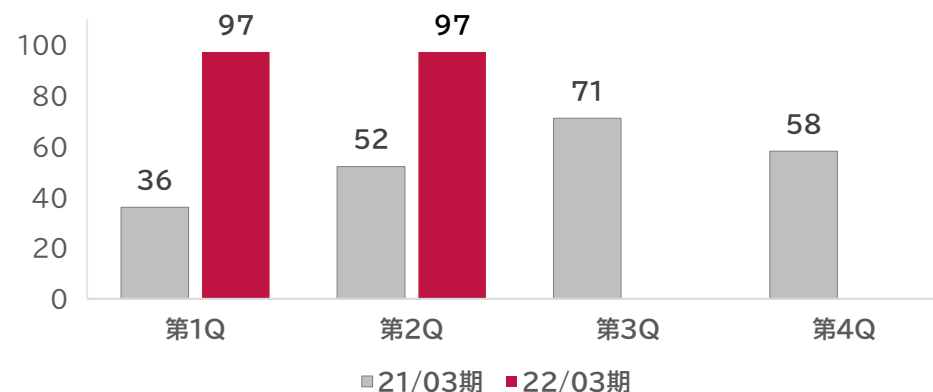
業態・セグメント別 営業利益 (億円)



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



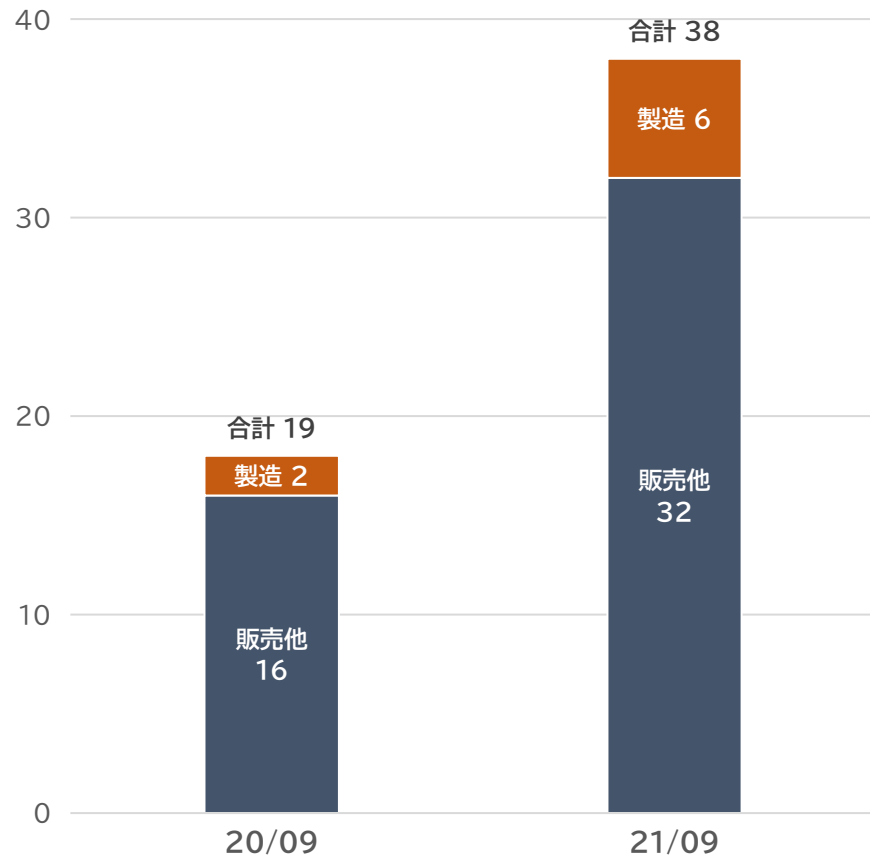
営業利益 四半期推移 (億円)



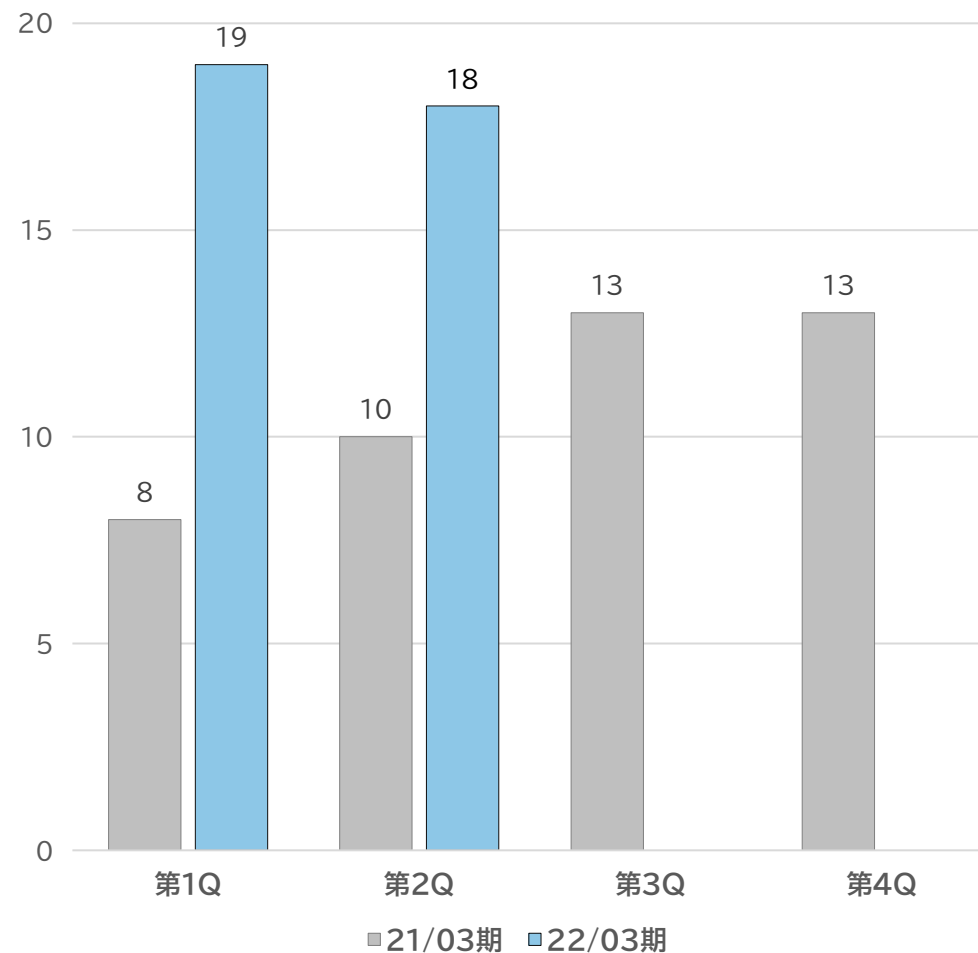
セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 自動車生産台数の増加を受けて塗料・ウレタン原料や、加工油剤関連・樹脂関連の原料販売が増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けのエレクトロニクスケミカル等の販売が堅調
- ▶ 営業利益は自動車関連ビジネスを中心に新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期と比べて、増加

業態別 営業利益 (億円)



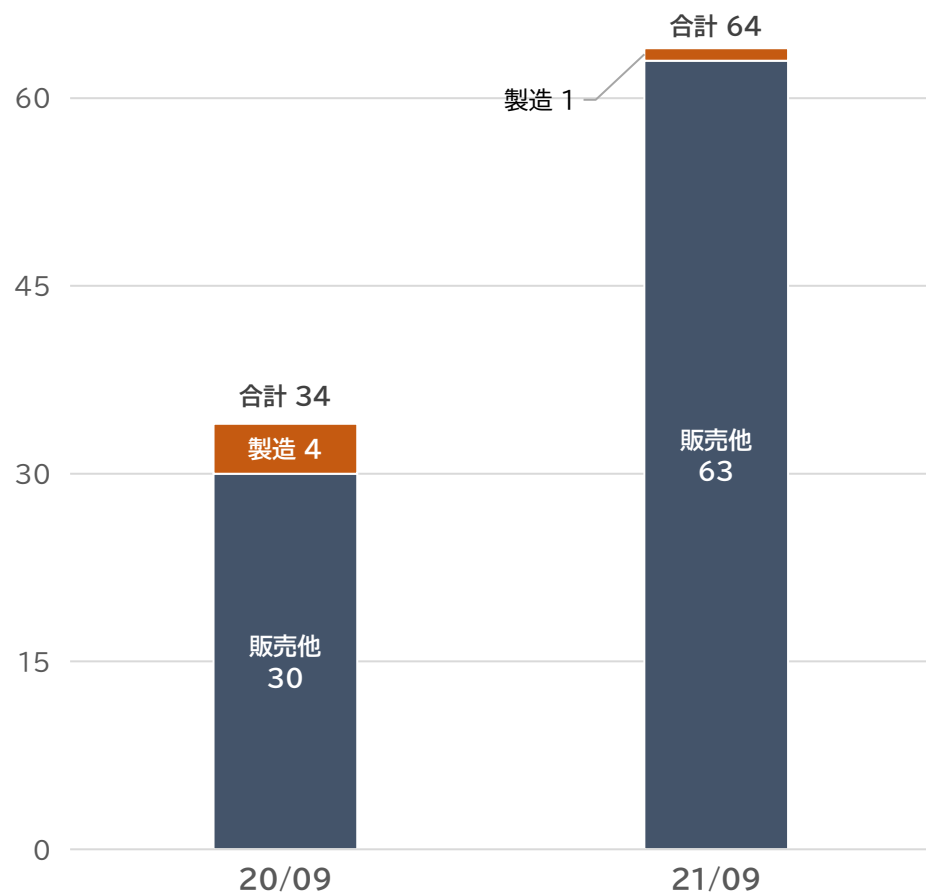
営業利益 四半期推移 (億円)



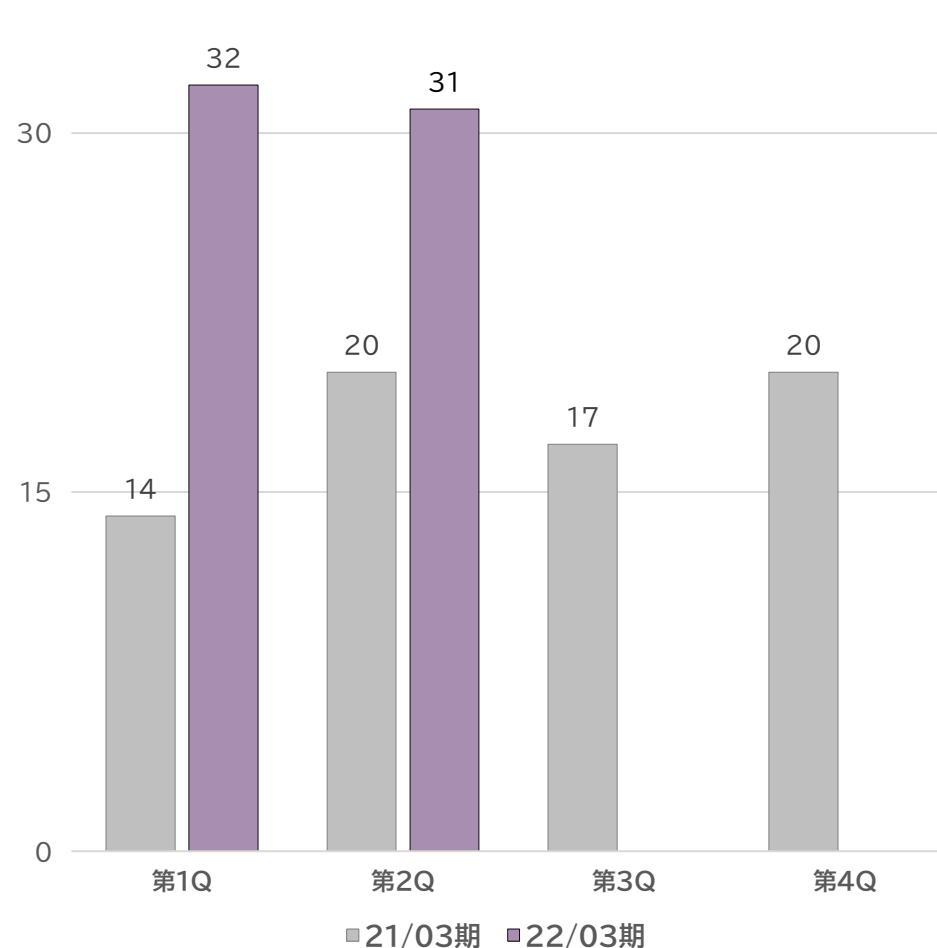
セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ 主にOA・ゲーム機器業界向けへの樹脂ビジネスは国内および中国を中心とした海外での需要増加、市況の高騰等の影響により好調
- ▶ 情報印刷関連材料の販売は前期下期からの市況下落の影響等により引続き不調
- ▶ 営業利益は国内外の樹脂ビジネスの需要の好調、市況高騰による収益性の改善影響が大きく、前年同期と比べて大きく増益

業態別 営業利益 (億円)



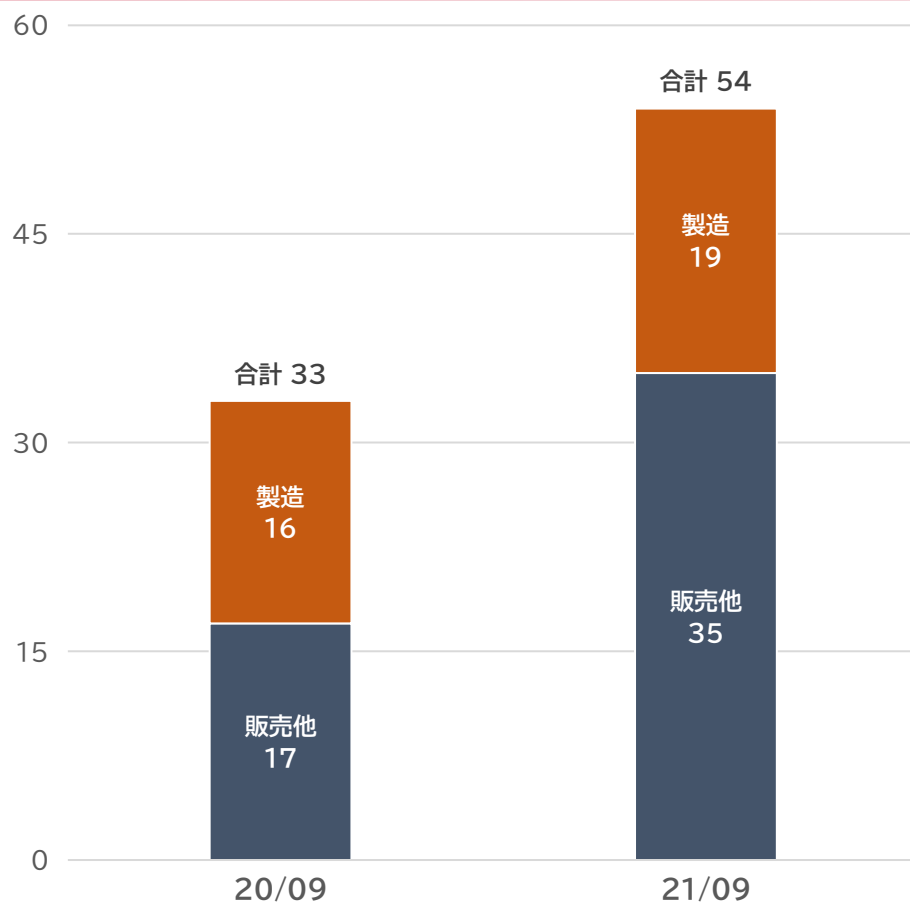
営業利益 四半期推移 (億円)



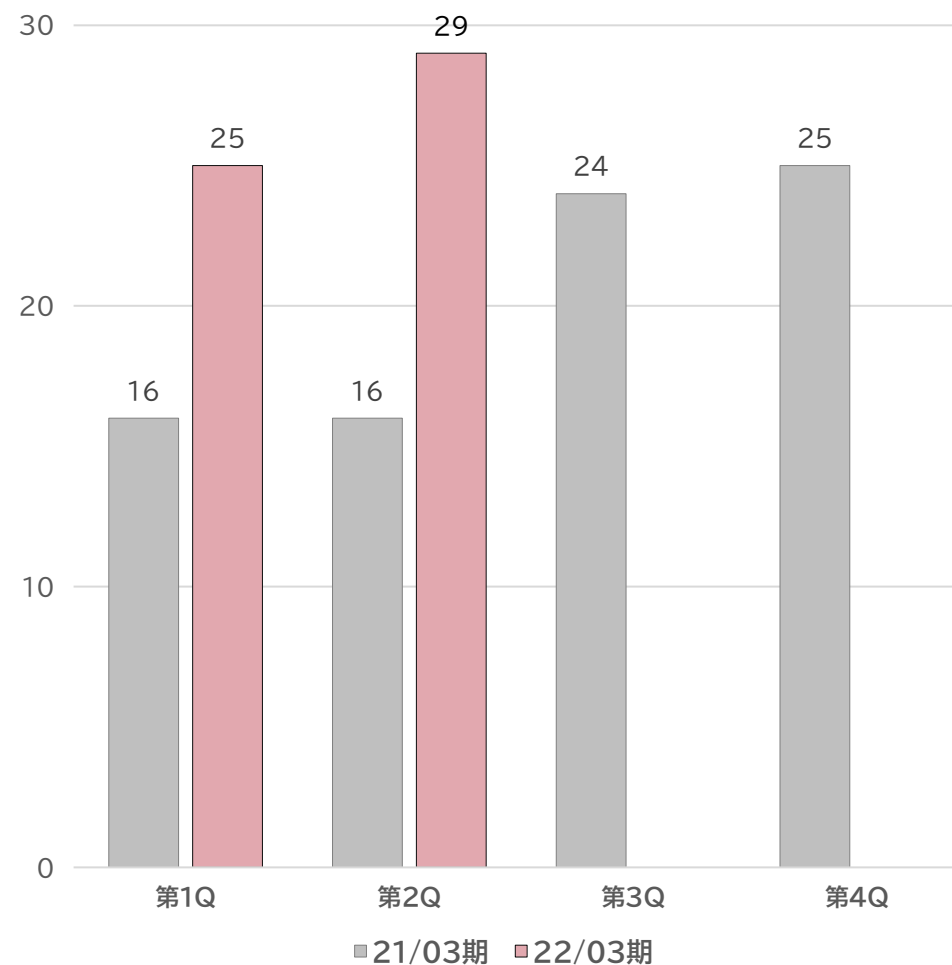
セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ ディスプレイ関連材料や、半導体用途向けの精密加工関連の販売が増加
- ▶ モバイル機器および半導体用途等を中心とした変性エポキシ樹脂関連の販売が増加
- ▶ 次世代通信関連ビジネスの体制を整備、開発費用先行だが中期的な成長を目指す

業態別 営業利益 (億円)



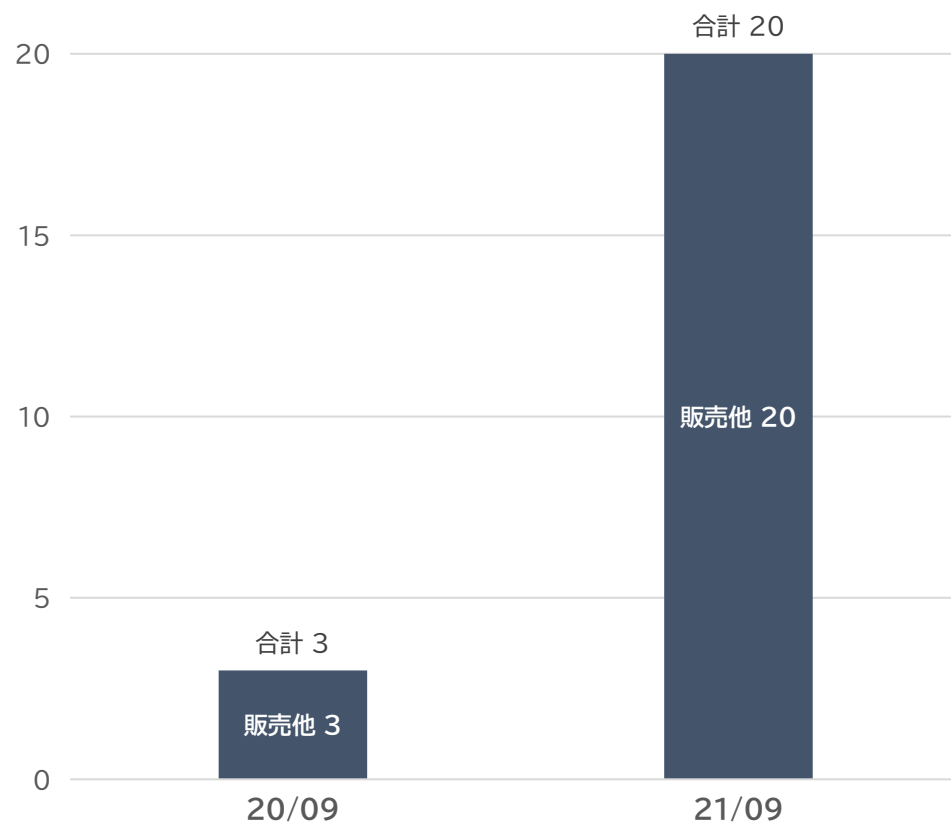
営業利益 四半期推移 (億円)



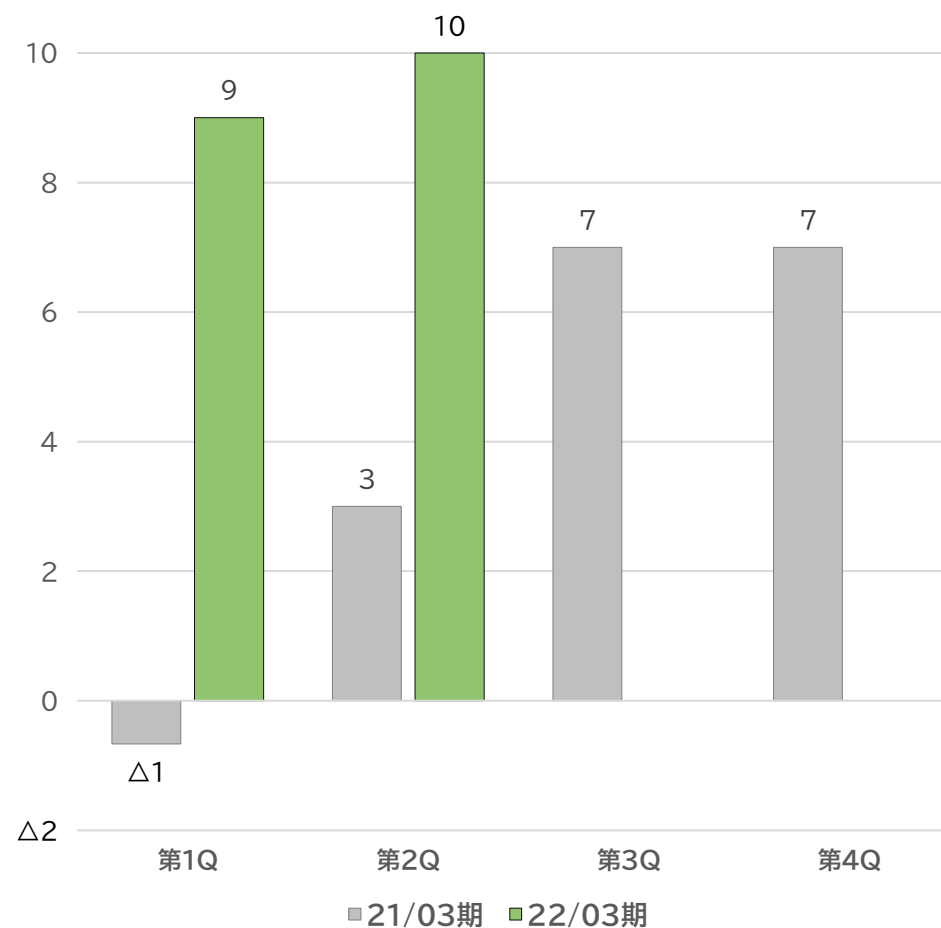
セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 国内およびアセアンを中心とした海外における樹脂ビジネスの販売が増加し、市況の高騰により収益性も改善
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 自動車生産台数の回復を受けて、前年同期と比べて大きく増益

業態別 営業利益 (億円)



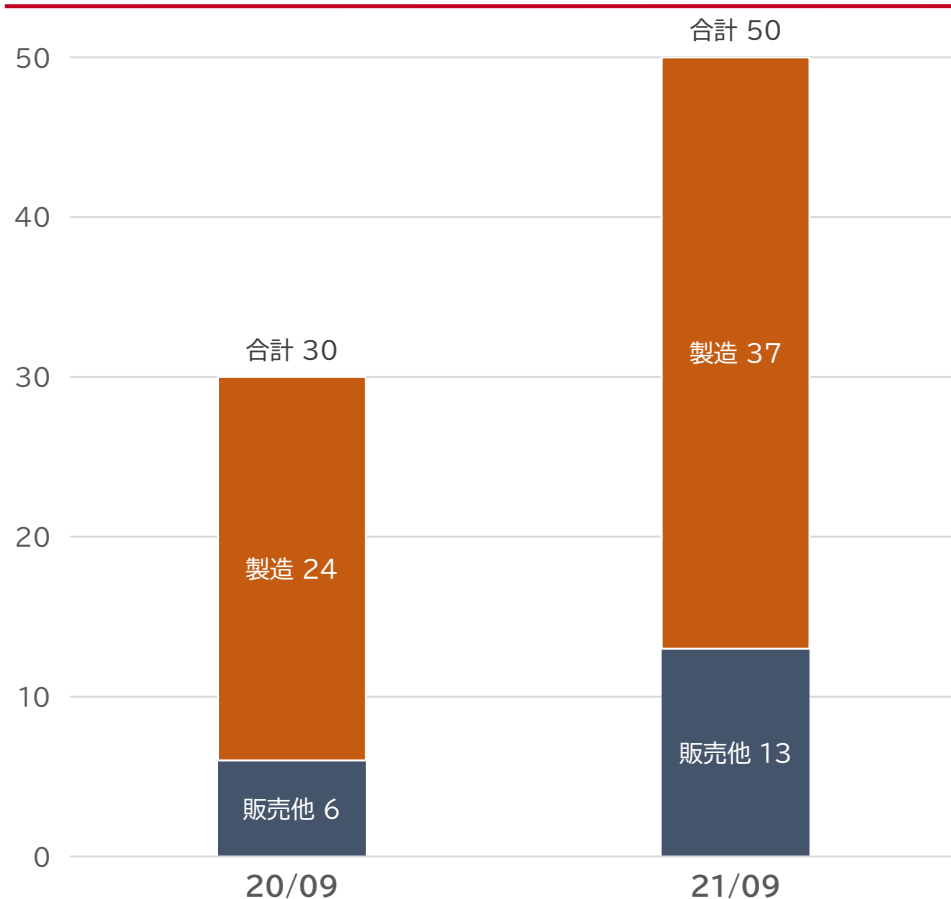
営業利益 四半期推移 (億円)



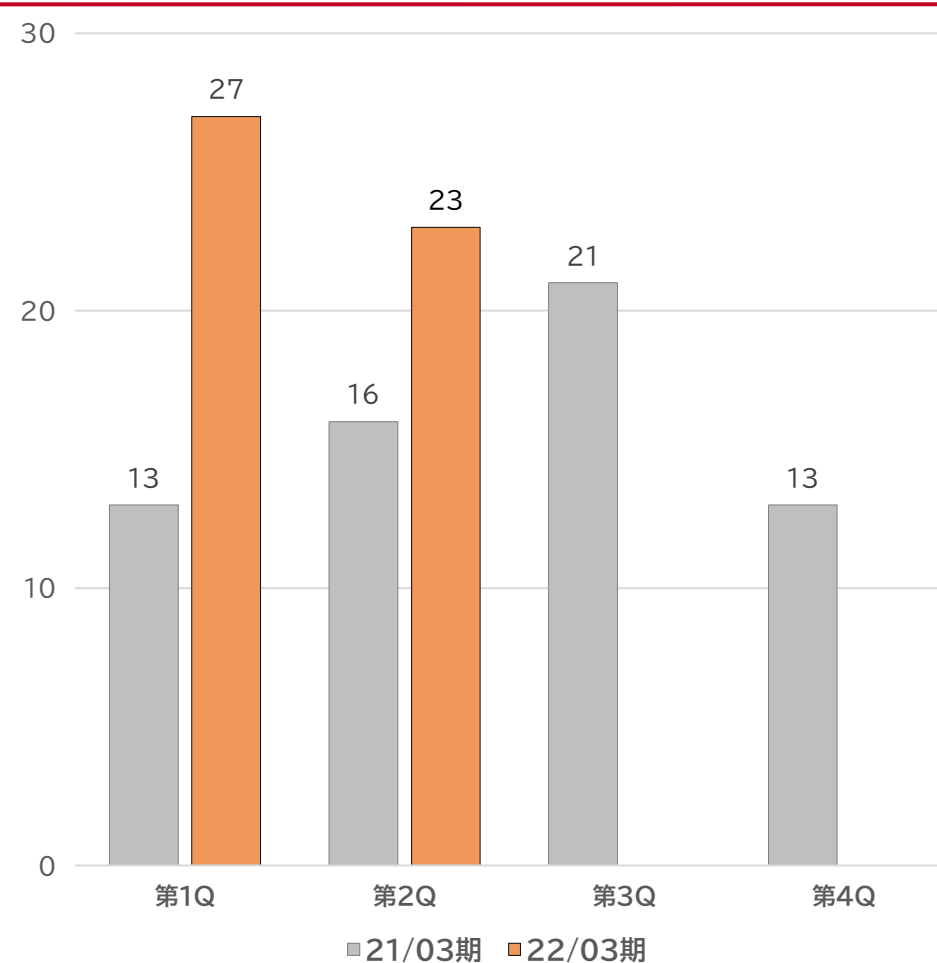
セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループのニュートリション関連ビジネスは素材販売、製造加工ともに好調に推移
- ▶ トレハ®等を中心とした食品素材、AA2G®等を中心とした香粧品素材、医薬品中間体・原料関連の販売が増加
- ▶ 全体として新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期と比べて大きく増益

業態別 営業利益 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)



主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：主にモバイル機器・半導体向けの変性エポキシ樹脂関連、ディスプレイ用途のフォトリソ材料等の販売が好調に推移し、増益
- ▶ 林原：食品素材トレハ®の需要や、化粧品素材AA2G®の需要の回復を受け、増益
- ▶ Prinovaグループ：米国経済の回復を受けたニュートリション素材の販売好調の維持および製造加工の復調もあり、増益

(単位:億円)

		20/09	21/09	増減額	前年同期比
ナガセケムテックス	売上高	120	146	25	121%
	売上総利益	37	47	10	127%
	営業利益	14	23	9	164%
	のれん等償却費 償却費負担後営業利益				
林原	売上高	114	130	15	114%
	売上総利益	49	54	4	109%
	営業利益	21	23	1	108%
	のれん等償却費	15	15	-	100%
	償却費負担後営業利益	5	7	1	127%
Prinova グループ	売上高	444	557	113	126%
	売上総利益	85	106	21	126%
	営業利益	25	37	12	148%
	のれん等償却費	9	9	△0	100%
	償却費負担後営業利益	15	27	12	180%

連結貸借対照表

- ▶ 流動資産：好調な業績を受けて売掛債権、棚卸資産が増加(運転資本が増加)
- ▶ 純資産：投資有価証券の時価下落や配当金の支払い・自己株式の取得はあったが、四半期純利益の計上により株主資本は増加
- ▶ NET D/Eレシオ：運転資本増加による資金需要で短期借入が増加し0.28倍と上昇

(単位:億円)

	2021年3月末	2021年9月末	前年度末差	主な増減
流動資産	4,017	4,415	398	
（現金及び現金同等物）	492	456	△35	
（売掛債権）	2,425	2,607	181	
（棚卸資産）	972	1,218	246	
固定資産	2,388	2,371	△17	
（投資有価証券）	937	904	△32	
資産の部合計	6,405	6,786	381	
流動負債	2,061	2,431	370	短期借入金・CP+275、1年内償還社債+100
固定負債	960	858	△101	
負債の部合計	3,021	3,289	268	
株主資本	2,847	2,928	81	自己株式△35
その他の包括利益累計額	449	468	19	為替換算調整勘定+46、有価証券評価差額△25
非支配株主持分	87	99	12	
純資産の部合計	3,384	3,497	112	
運転資本	2,198	2,554		
自己資本比率	51.5%	50.1%		
NET D/Eレシオ	0.23	0.28		

連結キャッシュ・フロー

- ▶ 営業活動によるCF：全般的に好調な業績により運転資本が増加し、136億円の純支出
- ▶ 投資活動によるCF：投資有価証券売却による収入等もあったが、有形固定資産を中心に投資を実施し49億円の純支出
- ▶ 財務活動によるCF：長期借入金の返済、自己株式取得等もあったが、運転資本の増加に伴う短期借入金の増加等により144億円の純収入

(単位:億円)

	20/09	21/09
営業活動によるキャッシュ・フロー	132	△136
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25	△49
フリーキャッシュ・フロー	106	△185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△236	144
換算差額	△4	3
現金及び現金同等物の増減額	△134	△38
有形・無形資産償却費	66	68
固定資産投資	△86	△75
運転資本の増減	22	△327

2022年3月期 通期業績見通し

- ▶ 上期は樹脂、自動車関連、エレクトロニクス関連ビジネス、Prinovaグループの業績等が当初想定よりも好調に推移
- ▶ 下期は樹脂市況の軟化や巣ごもり需要の一巡による需要減少、半導体、部品等の供給不足に起因する自動車生産台数の減少の懸念、経済活動の正常化に伴う経費執行増加等の影響により上期比減益見込み
- ▶ 下期における減速は見込まれるが、通年では売上総利益以下すべての段階利益で前年度比増益見込み
(2021年8月公表の修正業績見通しから変更無し)

(単位:億円)

	21/03 実績	22/03 見通し	増減額	前期比
売上総利益	1,146	1,300	153	113%
販売費及び 一般管理費	926	1,000	73	108%
営業利益	219	300	80	137%
経常利益	228	310	81	136%
親会社株主に帰属する 当期純利益	188	225	36	119%
US\$レート (期中平均)	@ 106.1	@ 109.5		
RMBレート (期中平均)	@ 15.7	@ 16.9		

2022年3月期 セグメント別業績見通し

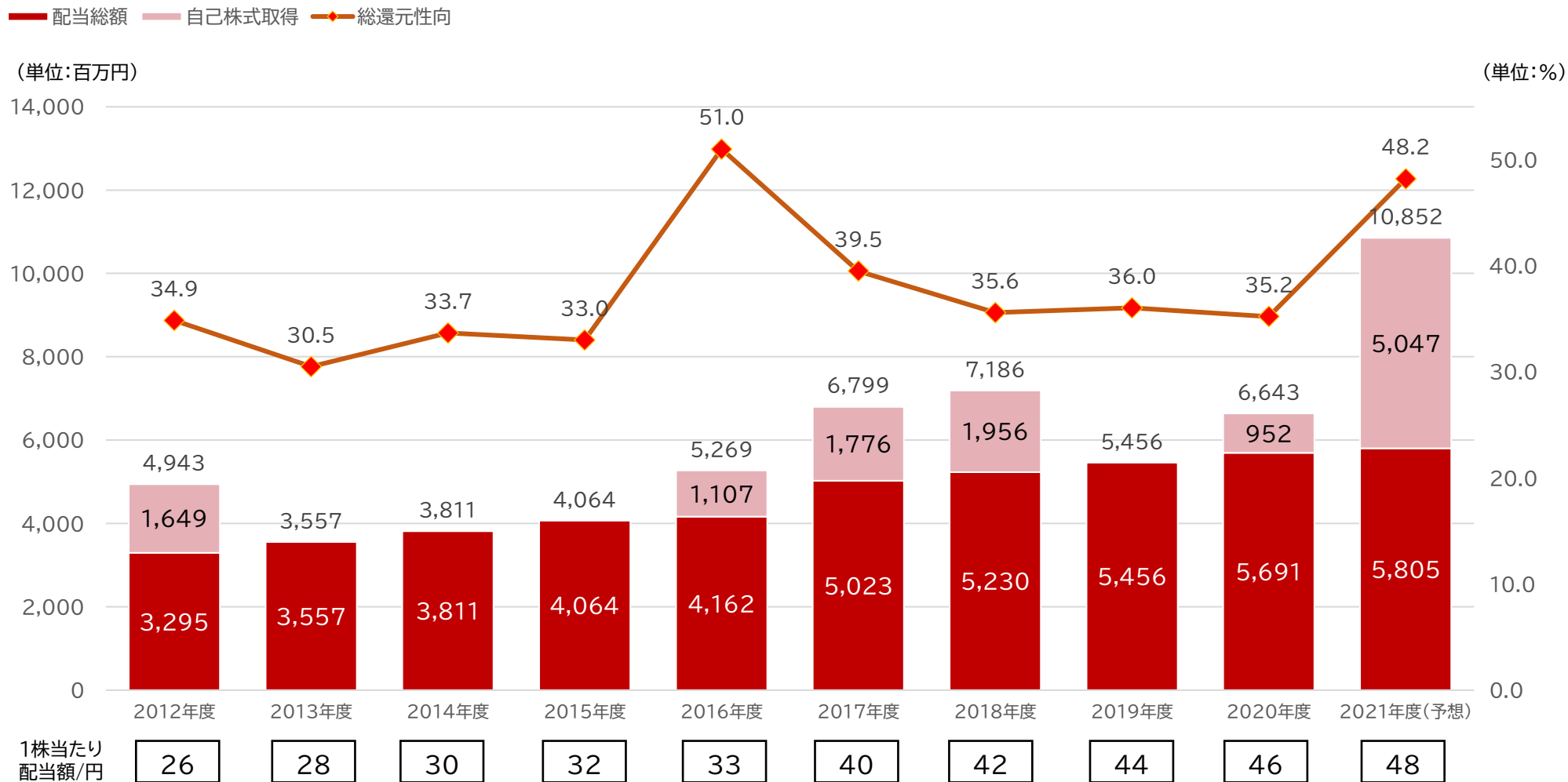
▶ 樹脂市況の軟化、巣ごもり需要の一巡による需要減少、半導体の供給不足、自動車生産台数の減少懸念、経済活動正常化に伴う経費執行増加等の影響により全事業セグメントにおいて 下期は上期比減益を見込むが、通年では全事業セグメントにおいて前年度比増益見込み（2021年8月公表の修正業績見通しから変更無し）

(億円)

		21/3 実績	22/3 通期見通し	増減額	前期比
機能素材	売上総利益	155	177	21	114%
	営業利益	47	66	18	140%
加工材料	売上総利益	268	295	26	110%
	営業利益	73	96	22	131%
電子・エネルギー	売上総利益	255	274	18	107%
	営業利益	84	88	3	105%
モビリティ	売上総利益	89	112	22	125%
	営業利益	18	34	15	184%
生活関連	売上総利益	374	437	62	117%
	営業利益	65	93	27	143%
その他・全社	売上総利益	1	5	3	271%
	営業利益	△ 68	△ 77	△ 8	112%
連結合計	売上総利益	1,146	1,300	153	113%
	営業利益	219	300	80	137%

株主還元状況

- ▶ 当期:中間配当金24円、期末配当金24円の年間配当金48円を予定(12期連続増配見通し)
- ▶ 自己株式取得60億円(2021年2月8日~2022年2月4日)を実行中(2021年9月末までに44億円取得済)



※ 2017年度の配当金には、特別配当金5円を含んでおります。
 ※ 2021年度の期末配当金は、2022年6月開催予定の第107回定時株主総会に附議予定です。

サステナビリティ推進について

サステナビリティ推進体制の構築

- ・グループ全体でサステナビリティを推進するための体制を構築
- ・コーポレートプロジェクトとして、従業員エンゲージメント向上・カーボンニュートラルプロジェクトを発足

取締役会

委員会/プロジェクト

2020年6月設置

サステナビリティ推進委員会

※委員長:代表取締役社長 朝倉

2021年9月発足

**従業員エンゲージメント向上
プロジェクト**

※オーナー:代表取締役社長 朝倉

2021年7月発足

**カーボンニュートラル
プロジェクト**

※オーナー:取締役 鎌田

コーポレートプロジェクト
NAGASEグループ全体が取り組む課題

業務執行組織

2021年4月設置

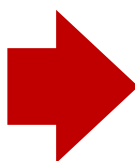
**コーポレートコミュニケーション本部
サステナビリティ推進室**

- ▶排出量削減
- ▶LCA可視化
- ▶フードシステムズ
- ▶サーキュラーエコノミー
- ▶ESG評価機関対応

個別プロジェクト
関係組織が協業して取り組む課題

コーポレートプロジェクト

	従業員エンゲージメント向上プロジェクト	カーボンニュートラルプロジェクト
マテリアリティ	【多様な人財の活用、職場環境と企業文化の提供】 グループとして多様な背景を持つ従業員が、 お互いを尊重し、活性化し合う職場環境の提供と 企業文化の醸成	【社会・環境課題の解決とグローバルイゼーション】 気候変動、食料・水不足等、安心・安全を脅かす 課題の解決
目的	従業員エンゲージメント=会社(組織)と従業員が相互 に理解し合い、お互いに高め合う状態と定義 ①従業員エンゲージメントの理解向上・浸透 ②会社(組織)と従業員間のオープンな コミュニケーションの促進 ③従業員エンゲージメント向上の障害を特定し、改善・排除	カーボンニュートラルについて、 長期的(2050年、2030年、2025年)な方針案 (目標値・施策など)の策定が必要
背景	外部環境の変化・個人の価値観の多様化・人財の 獲得競争激化により重要性が格段に増加	外部環境が大きく変化し、持続的な企業価値向上 にあたっては、気候変動対応が必須。カーボン ニュートラルに向けた具体的な削減方針が必要
進捗	長瀬産業の全従業員に対し、 <u>エンゲージメントサーベイ実施</u>	今期中に <u>TCFDへの賛同表明</u> <u>長期目標の設定と開示を予定</u>

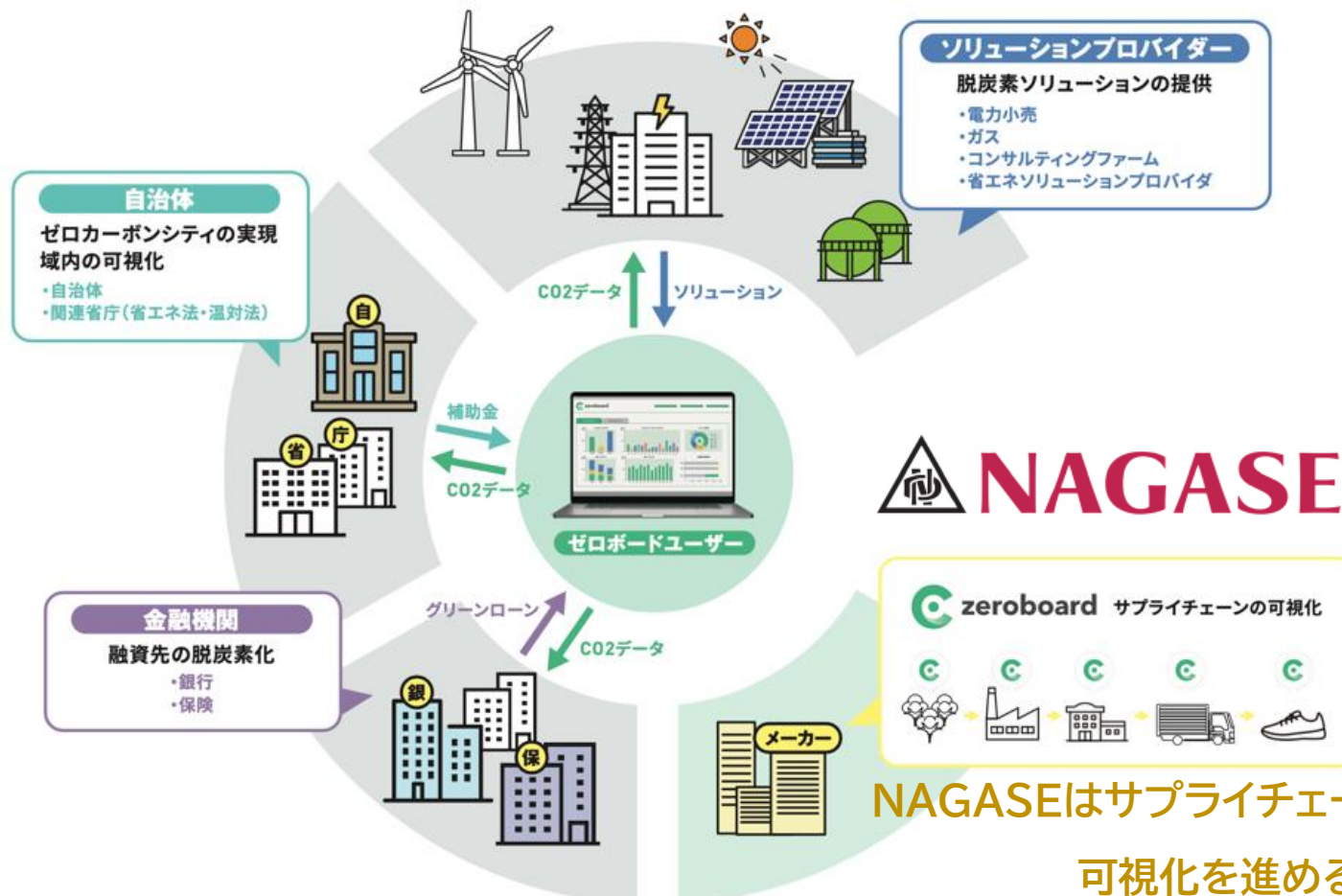


マテリアリティ（重要課題）に基づき、
ACE 2.0期間中の活動方針と非財務目標のKPI設定に向け取組み中

サプライチェーンにおける排出量の可視化/ゼロボード社と業務提携

- CO2排出量の算出・可視化クラウドサービスを手掛ける(株)ゼロボードと業務提携
- 当社は本サービスの販売、顧客ニーズの収集、CO2排出量削減ソリューションの開発・提供などを実施

様々なステークホルダーと協業し、社会全体の可視化と削減を目指す



NAGASEはサプライチェーンにおける
可視化を進める



<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2021年11月22日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。